

# 中国の高等教育機関における特殊教育教員養成と カリキュラムの現状に関する一考察

ZHAO SHIHAN・池本喜代正

宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第5号 別刷

2018年8月3日



# 中国の高等教育機関における特殊教育教員養成と カリキュラムの現状に関する一考察<sup>†</sup>

ZHAO SHIHAN\*・池本喜代正\*\*

宇都宮大学大学院教育研究科\*

宇都宮大学教育学部\*\*

中国の高等師範教育システムは1980年代から迅速に整備されてきた。教員養成の開放性を迎えた高等教育機関における特殊教育教員養成は、ここ数十年で大きな変化を遂げている。一方、養成目標の設定、カリキュラム編成、教師資格制度、教育地域格差や教育部免費師範生政策により生じた学生の養成と卒業後の進路選択等における課題も少なくない。本稿においては、中国の特殊教育教員養成制度に焦点を当て、特殊教育教師資格制度、高等教育機関における特殊教育教員養成の発展と現状について検証した。また、高等教育機関における特殊教育教員養成カリキュラムの編成実態と卒業生の進路などの実態を踏まえ、日本の特別支援教育教員養成制度と比較しながら、中国の特殊教育教員養成と高等特殊師範教育の今日的課題を明らかにした。

キーワード：高等教育機関、特殊教育、教員養成、カリキュラム、中華人民共和国

## はじめに

近年、中華人民共和国（以下、中国）の特殊教育においては、都市部を中心に、障害の重い児童生徒には特殊学校や特殊学級を整備し、障害の軽い児童生徒は随伴就読という形態で包括教育（インクルーシブ教育）が進められている。特殊学校や特殊学級の数の増加に伴い、当然そこを担う教員の数も増加している。経済発展と義務教育の推進に伴い、特殊教育教員養成はシステムをはじめ、カリキュラムや資格制度等に関することが法的に規範化されるようになってきた。そして、2001年に公布された「国務院による教育改革と発展に関する決定」によって、中国における教員養成は、従来の閉鎖式から開放式へ移行しており、特に高等教育機関における教員養成は、師範大学内だけではなく、総合大学や体育大学でも行われるようになってきた。それに伴い、高

等師範教育は量的にも質的にも顕著な変化が生じてきている。

本稿においては、中国の特殊教育の教員養成制度に焦点を当て、特殊教育教師資格制度、そして高等教育機関の教員養成制度がどのように変化をしてきたかを明らかにするとともに、教育部属重点大学や省属大学、専科レベルの大学において特殊教育教員養成カリキュラムがどのような意図でどのように構成されているか、また卒業生の進路などを具体的に検証し、日本の特別支援教育教員養成制度を参考としながら、中国の特殊教育教員養成と高等特殊師範教育の今日的課題について検討することを目的とする。

## 1. 中国における特殊教育教員養成システム

特殊教育教員養成の方針について、初めて出されたのは、1989年の「特殊教育の発展についての若干意見」である。そして、1991年に発効された「中華人民共和国障害者保障法」は、障害者の平等に教育を受ける権利が保障され、彼らの社会参加の促進を図ることを謳っている。その第25条には「国家は各級各種類の特殊教育師範院校、専攻の計画設置をし、普通師範院校に特殊教育クラス（部）を設置

<sup>†</sup> Shihan ZHAO\*, Kiyomasa IKEMOTO\*\*: A Study on the Current Situation and Curriculum of College and University-Based Special Education Pre-service Teacher Education in China

\* Graduate School of Education, Utsunomiya University

\*\* School of Education, Utsunomiya University

し、特殊教育教員養成と訓練を行う。普通師範大学は特殊教育課程の開設あるいは関連内容の講義を行い普通教師に対して必要な特殊教育の知識を掌握させる。」と規定されている。そして「中華人民共和国教師法」(1994)によって、教員養成に関する内容がはじめて法的に規定された。

#### (1) 中国における特殊教育教員養成の発展

中国の特殊師範教育は、中等特殊師範教育から始まった。急速に普及し始めた特殊教育の発展に対応して特殊教育専任教員の養成が深刻な課題となり、特殊教育教員養成が、中等教育機関をはじめとする各種の機関で開始されたのである。1980年に全国師範教育会議の後、「中等師範学校規程」(試行)が国家教育部によって公布され、中等師範教育の養成目標は「…小学校および幼稚園教師」と示された。また、「中等師範学校規程」(試行)においては、特殊師範教育機関も師範教育システムの一部であるとされた。だが、形成初期の特殊師範教育は、公的な制度もなく、それまでの蓄積がほとんどなかったため、すぐに困難な局面に陥った。最初の数年間においては、各学校機関は、自主的に建立と発展の道を模索しなければならなかったのである。そこで1980年代後期に、国家は継続的に特殊師範教育に関する政策と規定を定め、特殊師範教育制度を整備し始めた。

1990年代後期以来、伝統的な師範教育から脱却し、中国における特殊師範教育は量的・質的にも豊かな方向へと変革し、新たな時期を迎えたといえる。教員として資質の高い人材への需要が日増しに大きくなったため、1990年代半ばには、「科教興国」という戦略が提出された。新たな時代の発展目標の下に、教員養成制度は調整変革しなければいけない状況に置かれたのである。それに伴い、中等特殊師範教育の解体が引き起こされてきた。それと同時に、高等特殊師範教育が拡大してきて、高等特殊師範教育を行っている教育機関は著しく増加していった。中国における特殊教育教員養成は、それまでの中等特殊師範教育に重心を置いた教員養成システムから、高等特殊師範教育へと転換し、量的に質的に大きな変革を迎えたのである。

#### (2) 特殊教育教師資格制度

中国では、長期に亘って教師資格制度が欠如して

いたために、教員採用の規範化と教師権利の確保は深刻な歴史遺留問題として残っている。1980年代には、文化大革命から再興された中国では、義務教育の提出(「中共中央により教育システムの改革に関する決定」(1985))と義務教育法(「中華人民共和国義務教育法」(1986))の公布によって、教育普及目標は九年義務教育へ引き上げてきた。したがって、教師資格制度の導入のあり方に関する探索は猶予できなくなっていた。新しい教員養成制度を模索するため、1993年10月、「中華人民共和国教師法」が公布され、閉鎖的な教員養成制度を打破し、開放的な教員養成システムを整備するという方針が打ち出された。1995年12月、国務院は「中華人民共和国教師法(1994)」によって、「教師資格条例」を公布し、教師資格に関する類別、資格条件、資格考試及び資格の認定方法等について詳細に規定した。2000年9月、「『教師資格条例』実施方法」が公布され、1994年1月1日から教師になった教師認定資格にかなう中国公民は、法律によって教師資格証を取ることが規定された。こうして中国では、教師資格制度の法制化を迎えた。

中国は、全面的な教師資格証時代を迎えたが、現行の教師資格制度では、特殊教育教師の資格に対して明確な規定がまだない。特殊教育教師資格については、従事する場所によって、特殊教育を専門である小学校或は中学校の教師資格証を持つ必要がある。日本のような独立した特別支援学校教員免許状はない。しかし、特殊教育教師資格の確立へ探索は一刻も止まっていることはなかった。国家レベルでは、1994年に発表された「障害者教育条例」の「第六章 教師」の「第三十七条 国家」には、「障害者教育の教師の免許制度を実施し、具体的な方法を国務院の関連部門と国務院のその他の関連部門が制定する。」と特殊教育の教師資格制度を設けることが初めて規定された。1996年4月、国務院障害者事業協調委員会は「障害児義務教育に関する『九五』実施方案」を公布し、「特殊教育学校教師の資格基準を制定し、教師資格制度を実施する」ことが明確に規定された。1998年の「特殊教育学校の暫定規程」も教師資格制度に関する要求を明確に示した。また、上海市では、1997年に実施された「特殊教育教師資格制度」の中に、「特殊教育に従事する教師は必ず教師資格証を取得すべき」と定められた。中国における特殊教育教師資格制度の確立は着実に進んで

いると考えられる。

このように特殊教育事業の全面発展に伴って、質の高い特殊教育専任教員に対する要求も高まってきた。また、1990年代になると、義務教育の普及とともに、学校教育は従来の受験教育から、児童生徒全体の基本的な素質を向上させることを目的とし、素質教育の推進が教育改革の課題になってきたという背景もある。大量の教員養成が展開され、教員養成教育の開放化や高等教育化へと転換され、併せて教員養成の目標とカリキュラムの改革も進められてきていると言える。

## 2. 高等教育機関における特殊教育教員養成の変遷と現状

中国の高等教育機関は本科レベル（日本の大学該当）と専科レベル（短期大学に該当）があり、異なった基準によって分類できる。大学は類型によって12種類に分けられ、高等特殊師範教育本科レベルは一般的に総合大学、師範大学と体育大学において行われている。各大学は所属によって教育部直属、その他の中央部委属と地方属に分けられる。

### (1) 高等特殊師範教育システムの変遷

中国における高等特殊師範教育システムへの探索は三つの段階に分けられると考えられる。つまり、特殊教育学科の開設、研究生院（大学院）レベルの教員養成への探索、開放を迎えた高等特殊師範教育である。

中国において高等特殊師範教育が創設され発展していた時期は、1980年代である。1977年「高考復活」が出された背景には、中国の高等師範教育システムが迅速に回復してきて、師範専科学校、師範学院、師範大学の三種類の師範院校システムとなったことが指摘できる（李拉，2015）。これら三種類の学校はそれぞれ中国基盤教育の中での中等教員養成教育の役割を担うものである。しかしながら、80年代半ばになっても、高等師範教育機関における特殊教育専門学科は設立されなかった。特殊教育に関する資質や専門性の高い人材を育成するために、国家の計画の下に、北京師範大学を始め、教育部属重点大学において、高等特殊師範教育への探索を始めた。1980年、朴永馨により特殊教育研究室が北京師範大学で設けられた。これは新中国建国以来、初めての特殊教育研究機関である。そして朴永馨は1982

年に北京師範大学教育学部で特殊教育の選択科目を開設し教育学部の学生に対して特殊教育の基本知識に関する講義を開設した。高等師範教育機関における初めての特殊教育カリキュラムであると言ってよからう。1986年には、北京師範大学教育学部が中国初めての特殊教育学科を正式に設立し、本科レベルの特殊教育師範生を募集した。学制は四年で、募集対象は高校卒業生と少数の中等特殊師範学校推薦生であり、募集人員は計15名であった。これ以後、主だった師範大学に特殊教育学科が設置されていくこととなる。1989年9月、国家教育委員会の批准によって、華東師範大学では心理学系の中に特殊教育学科が設けられた。全国で15人の本科生を募集した。1989年、華中師範大学の教育系の中に特殊教育学科が設けられた。1993年、同じく教育部直属である西南師範大学において特殊教育学科が設置された。1995年、遼寧省属師範大学である遼寧師範大学の教育系にも、特殊教育本科学科が設置された。これまでは教育部属重点大学にしか特殊教育学科が設置されてこなかったが、遼寧省属師範大学が中国の省属師範大学において特殊教育本科学科が設置された最初の大学となった。

研究生院レベル（大学院に該当）の特殊教育教員養成は、1993年に北京師範大学特殊教育研究センターにおいて修士課程を設けられたのが最初である。1997年、華東師範大学は従来からある教育系就学前教育学科、心理系特殊教育学科を基礎として、就学前教育と特殊教育学院を設立し、特殊教育専攻の本科生と研究生（修士）を養成するための特殊教育学科と特殊教育研究所を設立した。

2001年に公布された「國務院による基礎教育の改革と発展に関する決定」には、教員の人数と資質を拡大確保するために、「師範教育」の代わりに、「教師教育」という言葉を打ち出し、従来の師範大学に限定された閉鎖的な教員養成が開放性を迎えた。総合大学や体育大学等も高等特殊師範教育を行う資格が与えられ、高等特殊師範教育機関数が増えてきた。

### (2) 現状

中国では高等特殊師範教育を行っている大学は、地域的には格差が残っているが、数的には拡大してきた。2017年の時点で、計84校があり、その内訳は、本科51校、専科27校、本専併存6校である。





図1 各省別高等特殊師範教育機関の数(2017)  
(筆者作成)

### 3. 高等教育機関における特殊教育教員養成カリキュラムと実態

#### (1) 高等教育機関における特殊教育のカリキュラム

高等教育機関における特殊教育学科のカリキュラムは、中国国家教育部の方針に基づいて、必修科目はほぼ共通している。各学校によって特徴や養成目標等により多少の違いがあるが、通識科目(共通科目)、一般教養科目、教科専門科目と教育実習という枠組みは、ほぼ同じである。

#### (2) 教育部免費師範生政策

中国の高等師範教育においては、教育部免費師範生政策がある。高等特殊師範教育機関数は、毎年の募集情況によって変化しているが、本科レベルと専科レベルは合わせて84校があり、毎学年4000人くらいの卒業生がある。その中で、教育部免費教育師範生コースがあるのは8校(うち教育部直属大学6校)である。教育部免費教育師範生コースに入学した学生は学費を免除される。その代わりに、学生は卒業した後、地元で10年間教員をする義務を負う。違約の場合は、四年課程の授業料の返還と、授業料と生活補助金の50%である違約費(新疆ウイグル自治区の場合は40%)を支払う規定となっている。

教育部免費教育師範生コースではない地方の高等教育機関で師範教育を受けている学生の学費と生活費も一部補助が出されている。師範生ではない場合は、通常の大学生と同じように私費で高等教育を受ける。

#### (3) カリキュラムの実態

中国の高等特殊師範教育機関は、専門知識をはじ

め、学生の実践力と創造力を重視するカリキュラムを編成する傾向がよく見られるが、具体的に見ると、養成レベルや目標等の違いによって、内容編成もそれぞれの特徴が見られる。そこで、筆者は特殊教育学科を開設した84校中から、師範教育といえば中国トップ1である北京師範大学、経済も文化教育も急速に発展している上海市にある華東師範大学、中国の発達した地区と地域格差が大きい中部の河南省にある専科レベルであった時の鄭州師範大学(鄭州師範学院とも呼ぶ)を選んで、それらの特殊教育教員養成カリキュラムの実態を踏まえて、高等特殊師範教育カリキュラムの特徴と進路情況の分析を行った。

#### 1) 北京師範大学のカリキュラム実態

北京師範大学は、中国の師範教育において代表的存在であり、モデルとなる存在である。北京師範大学特殊教育系本科レベルの養成目標は「広博な人文社会修養、優秀な総合素質、創新力、先進的な教育理念と十分な教育教学実践能力があり、専門基礎知識がしっかりしており、各種類の特殊教育機関で特殊児童の教育、訓練、リハビリ、福祉事業に従事できる優秀な特殊教育教師」と定めている。本科のカリキュラムは、専門知識と実践力の他、学生の研究力と創新力も重視していることが指摘できる。

具体的なカリキュラム(表1)を見ると、特徴として次の三点が指摘できる。まずは多くの学問領域に依拠して全面的な人材を養成することである。特殊教育学は、単一学問ではなく、教育学、心理学、医学、倫理学、社会学等様々な学問領域の知識が求められ、実際に複雑な学問である。北京師範大学における特殊教育専攻は教員養成であるが、単に教員になるための実践的な知識を教えるのではなく、学生に全面的な知識を教えることを意図したカリキュラムとなっている。専門必修科目では、人体解剖生理学、特殊児童アセスメント、基礎遺伝学、基礎眼耳鼻医学、基礎児童神経と精神医学等の医学的科目が多く設けられており、さらにロジック学もある。また、法律、医学、哲学、情報収集技術等、様々な科目が揃っている。従って、卒業生にとって進路は多くの選択肢がある。第二は、学生の研究力を重視することである。中国においてもほとんどの大学は、単位、実習と卒業論文が卒業要件であるが、北京師範大学は、これらに加えて学年論文が必要要件となっている。

表1 北京師範大学特殊教育本科のカリキュラム

公共必修科目 (通論科目)	中国革命史、 <u>哲学</u> 、政治経済学、体育、外国語(英語)、軍事理論、法律基礎理論、基礎コンピュータ技術、書籍情報検索、現代教育技術(特殊教育)
専門必修科目	普通心理学、児童心理学、教育心理学、 <u>人体解剖生理学</u> 、 <u>ロジック学</u> 、教育一般原理、教育論、德育原理、教育統計学、教育科学研究方法、中国教育史、外国教育史、 <u>特殊児童アセスメント</u> 、 <u>基礎通信学</u> 、 <u>基礎聴覚医学</u> 、 <u>基礎児童聴覚と精神医学</u> 、基礎言語学、特殊教育概論、聴覚障害児心理学と教育、視覚障害児心理学と教育、知的障害児心理学と教育、特殊教育史、基礎点字と手話、特殊学校実習、特殊教育教師実習、 <u>社会調査</u> 、 <u>学年論文</u> 、卒業論文
限定選択科目	教育経済学、教育社会学、学校管理法、教育法学、特殊教育専門外国語(英語)、外国特殊教育、特殊児童就学前教育、学習障害児教育、 <u>英才児童教育</u> 、 <u>少年犯教育</u> 、言語障害の矯正、行動矯正、基礎リハビリ知識、メンタルヘルス相談、小学校国語教育論、小学校数学教育論、小学校科学教育論、特殊教育社会参考、特殊教育管理、 <u>特殊教育名作多読</u> 、学校衛生学、教育実用書選
任意選択科目	教育哲学、社会教育学、比較教育学、 <u>データベース</u> 、 <u>教育スタティスティックソフトウェア</u> 、 <u>家庭教育</u> 、 <u>管理心理学</u> 、教育評価、就学前教育概論、 <u>就学前教育概論</u> 、 <u>少年児童法律保護</u> 、高等教育研究、マルクスレーニン教育論名作多読
公共選択科目	芸術類、自然科学類

北京師範大学特殊教育系カリキュラム表より整理  
(下線、筆者)

学生は入学してから、毎年研究論文を書くことが求められるため、卒業する時の研究力は当然ながら他大学学生よりも高いと考えられる。第三は、専門的な幅が広いことである。北京師範大学のカリキュラムでは、学習障害児教育、英才児童教育、少年犯教育、言語障害の矯正、行動矯正、基礎リハビリ知識、メンタルヘルス相談等の科目が見られる。この学校における科目は、伝統的な聴覚・視覚・知的障害から、学習障害、英才児教育または少年犯教育へとより広い領域の科目が設定されている。つまり単なる障害児教育ではなく、特別ニーズ教育を意識したカリキュラムであると言える。ただし、自閉症等の発達障害に関する科目はない。そして学生は、自分の関心のある研究領域を専攻していき、一般的な特殊教育教員養成よりも専門性が高くなるように教育課程を選択できる。このように、科目が充実していることは、特殊教育系だけではなく、大学全体として連携できる教員スタッフ数が充実していることを意味する。

全ての学生は教育部免費師範生コースである。教師法により教員の待遇は保障されているが、教師の給料は各省の財政に基づくため、学生の地元の経済

発展水準により低給料と低生活質量のゆえに、8割以上の卒業生は違約して、教員ではない仕事または進学を選んでいる。特殊教育教員として就職する学生は、年にわずか2名程度である。

## 2) 華東師範大学のカリキュラム実態

華東師範大学特殊教育専攻における養成目標は、「特殊教育学校、通常学校、施設で、特殊教育に関する教学、研究、管理事業ができる社会責任感と文化修養が高い者を育てる。」とされている。華東師範大学の特殊教育学科カリキュラム編成(表2)の特色は、特殊児童アセスメント、特殊児童早期介入、行動矯正技術、基礎リハビリテーション技術、特殊児童家庭教育、特殊教育に関する応用心理学やリハビリテーション等、心理学医学的な科目が多いこと、学習困難児童教育、自閉症児童教育、英才児教育、重度重複障害児教育、情緒障害児と行動障害児教育等、中国では伝統的な特殊教育対象ではない障害についての科目も多様な障害種まで網羅していることである。また、沿海の経済が発達した上海市に位置しているために、教育理念も先進的であると指摘できる。特殊学校学級経営、SPSS、リソースルーム、言語言葉病理学、特殊児童言葉訓練、心理アセスメント、異常心理学等の科目も設けられている。

華東師範大学の特殊教育教員養成是北京師範大学と同じ教育部免費師範生コースであるが、養成目標として、北京師範大学ほど研究力・創造力を重視してはいない。また、学生は大体として南東部の沿海地域出身のため、地元で10年間の教員をやっても、給料も高いし生活質量も悪くないため、学生の教職への抵抗感が低く、57%の卒業生の進路選択は教員である。そして、特殊教育関係は29%を占めている。

## 3) 鄭州師範大学のカリキュラム実態

鄭州師範大学における特殊教育教員養成は、特殊教育系の特殊教育専攻、特殊教育専攻手話翻訳コース、特殊教育専攻就学前教育コース、特殊教育専攻児童リハビリコースが設置されている。ここでは手話翻訳コースを例にして考察する。特殊教育専攻手話翻訳コースの養成目標は「手話翻訳のでき、専門知識のある現場教師と教育技術者を育てる」である。カリキュラム(表3)に見るように、特定の障害種を対象とした教育に関する内容が中心であり、卒業後は特別支援学校や特定の障害種学校の教師になることが期待されている。

表2 華東師範大学特殊教育本科カリキュラム(一部略)

師範生基礎科目		倫理学、哲学概論、世界文化概論、中国文化概論
学科基礎科目	関連学科基礎科目	人体解剖生理学、高等数学D、教育科学研究方法、中外教育史、科目と教学、
	学科基礎科目	普通心理学、教育心理学、教育と心理統計、特殊教育学、発達心理学
専門科目	核心科目	特殊教育史、 <u>特殊児童アセスメント</u> 、 <u>特殊児童早期介入</u> 、 <u>行動矯正技術</u> 、 <u>養育リハビリテーション技術</u> 、 <u>特殊児童家庭教育</u> 、 <u>特殊教育に関する基礎医学</u> 、 <u>実臨床心理学</u>
	拓展科目(発展科目)	特殊教育政策法律法規、 <u>特殊学校学級経営</u> 、 <u>SPSS</u> 、 <u>特殊教育英語</u> 、 <u>特殊児童病理学</u> 、 <u>教育聴解学</u> 、 <u>融合教育の理論と実践</u> 、 <u>リソースルーム</u> 、 <u>学習困難児童教育</u> 、 <u>自閉症児童教育</u> 、 <u>英才児童教育</u> 、 <u>重度重複障害児童教育</u> 、 <u>情緒障害児と行動障害児教育</u> 、 <u>言語言葉病理学</u> 、 <u>特殊児童言葉訓練</u> 、 <u>心理アセスメント</u> 、 <u>学校心理</u> 、 <u>特殊児童認知訓練</u> 、 <u>異常心理学</u>
	実臨床科目	中小学校教学数学、芸術教育論、運動とリハビリ、感覚統合訓練、卒業論文
教師教育	教育	教育学
	教育実践と技術	教師会話、情報化授業デザインと実践、微格教学、教育見学(手話、点字を含む)、教育実習
	教育研究	特殊学校教学検討、授業デザイン
	学科教育	特殊学校国語教材づくりと教育法、特殊学校教学教材づくりと教育法

華東師範大学特殊教育系カリキュラム表より整理  
(下線, 筆者)

表3 鄭州師範大学特殊教育専攻手話翻訳コースカリキュラム(一部略)

専門主幹科目	中国手話、聾人自然手話、手話実践練習、専門用語手話、手話言語学、諸国の基礎手話(国際手話)、聾人と社会、聾人教育史、聾童(聴覚障害児)心理と教育、特殊教育概論、手話翻訳概論、現代国語、中国手話研究、文学多読、心理学、教育学、聾人文化、言語学概論、倫理学、障害者理解、社交マナー
--------	--

阳光高考网データより整理

また、地方政府がお金を出して学生の授業料を免除しており、また進路等について教育部の免費師範生のように地元の貧困地域で10年間教員をやるという厳しい義務はないため、卒業生の8割は特殊教育関係の教師になるという進路を選んでいる。更に、9割以上は、教育事業に従事している。

#### 4. 総合考察

中国の高等教育機関における特殊教育教員養成

は、ここ数十年で大きな変化を遂げてきた。各大学は各々の師質情况等に応じて特色のある教員養成カリキュラムを設けており、中等教育機関を養成中心とした時代から大きな発展が見られるが、全体的には課題がまだ少なくない。

日本の特別支援教育教員養成を参考としながら、以下の課題が指摘できる。

##### (1) 養成目標に関する課題

まず、養成目標においては二点ある。第一は、特殊学校教員養成のみならず、通常学校の中で特殊教育に携えられる教員養成も含めて多様な進路を想定した教員養成が必要であるため、今後はより広範的に発展していくべきである。つまり特殊教育学科専攻は、従来は特殊学校専任教員を想定して、教員養成を行ってきたが、通常教育での随伴就読教員を養成する責任も担うべきである。また、学生の実践力と研究創新力の均衡発展を重視するべきだと考えられる。

第二は、養成目標に応じるカリキュラム編成を再検討すべきである。学生に対してそれぞれの養成目標に応じた師範教育を受けさせ、進路に有利となる知識を養成課程の期間内に身に付けさせることの重要性を意識して、カリキュラムを編成することは重要である。

##### (2) カリキュラム編成に関する課題

カリキュラムの編成においては、近年の高等教育機関における特殊教育教員養成は、国家が教師教育を継続的な発展と改革を行うために、教員養成に力を入れているため、確実な進展が見られる。特殊教育教員養成カリキュラムにおいて、従来の問題とされていた科目不足や実践力を軽視という課題についても、カリキュラム編成に改善が見られる。各院校の特殊教育教員養成カリキュラムでは養成目標に応じて、多様な障害に対応できる教員を育てようとしており、また、理論と実践を統合できる教員養成を意図しているように思われる。

しかし、現在の特殊教育教員養成においては、早急な解決の待たれる問題がまだいくつか残っている。一番深刻なのは教科教育科目の不足問題である。近年、特殊教育学校の発展とともに、教科教育が優れている教員の需要数が年々増えている。特殊師範教育学科の学生と教科教育学科の学生との大きな違いは、特定の教科での専門性が不足であるとよく言われており、特に国語、算数専攻の学



生と比べれば、競争力が弱いことが問題とされている。教科教育科目が不十分であることは、ほとんどの高等特殊師範教育のカリキュラムに存在しているため、これは今後のカリキュラム編成の重要な課題であろう。

第二は、肢体不自由、自閉症、発達障害、言語障害、学習障害に関するカリキュラムがほとんどない点である。教育部が発表した2015年の特殊教育基本状況によると、全国で特殊教育学校は計2,053校である。障害種別では、盲学校30校、児童生徒数は8,762人、聾学校437校、児童生徒数は64,759人、そして培智学校は458校、児童生徒数123,120人、1学校平均269人である。高等特殊師範教育機関では、知的障害、視覚障害、聴覚障害に関する科目が中心であり、他の障害に関する授業がほとんどない。カリキュラムが完備しているとも言える華東師範大学の場合、自閉症児童教育、英才児教育、重度重複障害児教育、情緒障害児・行動障害児教育、言語障害病理学があるが、必修科目ではなく選択科目である。従って、多くの学生は専門生であっても、実践現場で求められる実践力のみならず、幅広い専門的知識が十分とは言えない。

また、教育実習の課題である。第一は、実習期間が短いことである。王（2003）は「欧米など特殊教育教員養成システムが完備である地域においては、実習・見学の時間は全課程の三分の一も占める」と指摘した。しかし、中国の高等特殊師範教育の実習期間は大体8週から12週である。確かに日本の特別支援学校教育実習そして小学校教育実習などを合わせた6週から8週よりは長期であるが、欧米のそれと比べるならば、必ずしも長期ではない。第二は、教育実習先の確保の問題であるが、分散式実習が多い。分散式実習とは、大学が実習機関を準備・指定するのではなく、学生それぞれ自分で実習先を探し、実習することである。実習希望者は多いにもかかわらず教育実習機関の受け入れ枠は少ないため、多くの学生は自分の人脈を利用し、自分で実習先を見つけて実習を行わざるを得ない。従って、大学附属学校の実習と異なり、指導教員の質や対応の問題もあり、実習の質の確保が難しいことに繋がっている。第三は、実習実施の方法としては、集中式実習が多い。つまり、まとまった期間で集中的に実習を行っており、長期にわたり定期的の実習を行う方式ではない。そのため児童生徒の変化や継続的な指導につ

いての学びが少ないと言えよう。

上述のように、中国の大学では、実習機関を準備・指定するのではなく、学生各自で実習先を探して実習するため、学生の実習実態が把握し難いし、評価の公平性もなかなか確保できない。教育実習は学生の理論知識と実践力を結ぶための重要な一環であるとも言える。これからの教育実習は、どのように変革すればよいのかについてまだ不断な探索が求められている。

また、大学教員の数や質を充実させることについても、課題は少なくない。

#### おわりに

中国における特殊教育教員養成は、既にほとんど中等教育機関から高等教育機関へと転換してきた。2017年に、特殊教育教員養成が行われている中等教育機関は肇東師範学校1校だけである。さらに、近年の教育部データによると、特殊教育専任教員の9割以上は高等教育機関の学歴を持っている。それでも、通常教育教員養成システムより立ち遅れている。中国での高等教育機関における教員養成は、本科と専科に分けられている。2014年の全国高等教育機関募集状況によって、特殊教育教員養成が開設された高等教育機関は61校であった。募集総人数は4,522人の中に、専科2,432人、本科2,090人であった。本科は総人数の46.3%を占めていた。一方、高等教育機関における通常教育教員養成においては、2012年の71.06万人の中の54.22万人は本科レベルであり、募集総人数76.3%を占めていた。

システム構造の課題としては、第一に地域による不均衡性である。中国の各地域では、経済と教育現状の格差により、特殊教育教員養成の発展に大きな不均衡が存在している。中部、西南農村部と西部(西藏自治区、新疆ウイグル自治区)等の経済発展が遅い地域は課題が更に深刻である。しかし、中国では、農業の発展を維持するため、農業大省である中部省分の経済・科学技術・文化上の発展を制限することがあるため、地域格差を消滅することは、長い期間を要しても非常に困難であると思われる。そのために、発展が遅い地域における特殊教育教員養成も楽観視できない状況である。発展が遅い地域では、平均消費水準が相対的に低い、一人あたりの年平均収入も低い。大学の卒業生は自分の個人発展と家族の将来のために、社会環境が優れている北京上海等

の大都会で仕事を探す傾向が強い。特殊教育専攻の学生も例外ではない。特殊教育教員養成の均衡の発展を図るために、各地域間の教育上の連携を強化することの他、国家レベルでどのように各地域の経済・文化・科学技術上の不均衡を改善するかの検討が不可欠である。また、規範性が足りないこと、高等特殊師範教育機関の教員不足も課題と指摘できる。

研究上の今後の課題としては、より多くの大学における特殊教育教員養成のカリキュラムや科目内容についてより実証的に検討することが必要であろう。今後、データを多く収集し、検討していきたい。

#### 主な参考文献

- 1) 李拉 (2015), 对新中国特殊师范教育制度建设的考察, 南京师范大学博士论文
- 2) 中国国家教育部ホームページ  
<http://www.moe.edu.cn/publicfiles>
- 3) 王雁 (2012), 中国特殊教育教师培养研究, 北京师范大学出版社, P344
- 4) 北京師範大学教育学部特殊教育系  
<http://fe.bnu.edu.cn>
- 5) 華東師範大学教育学部特殊教育系  
<http://ed.ecnu.edu.cn>
- 6) 阳光高考网 <http://gaokao.chsi.com.cn/>
- 7) 王昌善 (2003), 世界主要发达国家本科学历小学教师培养课程设置, 外国中小学教育2003年第十期, pp33-34

平成30年3月28日 受理



**A Study on the Current Situation and Curriculum of  
College and University-Based Special Education  
Pre-service Teacher Education in China**

Shihan ZHAO, Kiyomasa IKEMOTO